

保護者・地域のボランティアによる安全活動事例

前回は引き続き、子どもの安全を守るための地域ぐるみの取組を紹介します。活動事例を参考にいただき、地域ぐるみの安全の取組を推進してください。

学校・園や地域での取組事例を当事務局（体育健康教育室学校安全担当）までお知らせください。

第四錦林小学校

PTA や校区の住民の方々による子どもの見守り活動を実施。通学路で登下校の時刻にあわせ、地域の人が門はき、花の水撒き、犬の散歩、ジョギング等をしながら、子どもたちを見守り、声かけをしている。約100人参加。（NHKテレビ「ご近所の底力」で紹介されました。）

修学院第二小学校

下鴨少年補導委員会修二支部の活動として、昭和56年ごろから夏休みのプール終了後、下校する子どもたちを見守ろうとパトロールを実施。夏休みプール開設期間中（今年度は7/21～8/6）、午前の部終了後（午前11時30分～）と午後の部終了後（午後3時～）の1日2回、交通量の多いところや人通りの少ないところ等3ヶ所でパトロールをし、子どもに声かけをしている。

山階小学校

昨年12月の宇治小事件を受け、子どもや地域住民が安心して暮らせるように、地域住民が「山階安らぎの街づくり会」を結成。会の活動の一つとして、本年5月に校区内をパトロールする「みまもり隊」を発足し、毎日、登下校時に立ち番・パトロール、毎週木曜日に校舎の安全点検、月に1回校区内の見回りを実施している。また、夏休みのプール指導やチャレンジタイム学習の期間においても登校時に立ち番・パトロールを実施している。現在、隊員は住民19人で構成。

山ノ内小学校

平成13年の大教大附属小事件以後、自治連合会が中心となって通学路3ヶ所での立ち番を実施。登校時は、PTA と交通安全推進委員会が、下校時には、地域のお年寄りや自治連合会の方々が、数名ずつ毎日交替で低学年の下校時間帯を中心に30分～1時間程度立ち番をする。（毎月の下校時刻を学校から自治連合会に連絡。）約700人が参加されているため、1人当たりの出番は年数回とのこと。帽子を統一して着用している。

川岡小学校

児童会（安全委員会）の活動として、地域の安全を守るための川岡版こども110番のいえ「かわおかレスキュー」のステッカーを作成し、警察署の方とともに地域のお店にお願いして貼っていただき、さらに、保護者にも2枚ずつ配付し、1枚は、自宅の前に貼付、もう1枚は、保護者から近所の方にも貼っていただくよう依頼。ステッカーの図案と名称は児童から募集した。

自治連合会からも協力を得て、川岡地域住民に周知され、地域の犯罪抑止力になり、「地域の子は地域で守る」活動の推進力になっている。



児童がデザインした

「かわおかレスキュー」のステッカー

修学院中学校

今年度から生徒が、地域住民による児童の「安全見守り活動」に参加している。学区の社会福祉協議会が作った赤いバッジ（修ちゃんバッジ）を鞆などにつけて登下校し、「みんなが子どもを見守っているよ」とアピールしている。現在、400人の生徒がバッジをつけている。挨拶や声かけを通して小学生との交流が深まり、また、バッジをつけていることで、中学生としての規範意識が高まるなど、生徒にとっても有効である。